

## 『いもち病』の多発が予測されています

平成 22 年度から、いもち病多発地域では、  
コシヒカリBLの防除方法の変更をお願いしています。

- ◆ 平成21年の県内のいもち病調査ほ場等（約2,600地点）のうち7地点で、コシヒカリBLの抵抗性品種（BL3号、4号、10号）に感染するいもち病菌が確認されました。
- ◆ 発生地点はごくわずかですが、今後これらのいもち病菌が多発地域を中心に広がることが懸念されるため、「葉いもち」を出さない対策をしっかりと行ない、コシヒカリBLのいもち病に対する抵抗性効果を維持していきましょう。

### 【防除対象地域】

いもち病多発地域

（山間・山沿地域等で、コシヒカリBL導入以前に予防剤による葉いもち防除が必要だった地域を示します。ささかみ地区はこれに該当します。）

### 【今までのいもち病防除の考え方は？】

- コシヒカリBLは、葉いもちまたは穂いもちの1回防除
- コシヒカリBL以外は発生状況に応じ葉いもち及び穂いもち防除を2～3回実施

### 【本年の防除方法！ここが変わります】

#### 1 あたり米や慣行栽培に関わる全品種

コシヒカリBLの抵抗性品種に感染するいもち病菌の発生・増殖を抑えるため、「葉いもち1回防除」をお願いします。

（穂いもち防除のみでは、葉いもちが発生した場合に菌の増殖回数が増え、コシヒカリBLに感染する新たな菌を増やしてしまうため、葉いもち防除とします。）

#### (1) 育苗箱施用剤によるいもち病防除を実施した場合

以後の葉いもち防除の必要はありませんが、7月中旬には効果が切れる場合があるので、ほ場をよく観察してください。（葉いもちの発生が見られたら防除が必要です。）

#### (2) 育苗箱施用剤によるいもち病防除を実施していない場合

水面施用剤の散布

対象病害名	薬 剤 名	施用時期の目安
葉いもち	オリブライト1キ粒剤	6月20日～7月5日

注) 湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しはしない。

### 特に注意

○わたぼうし

ほ場抵抗性が弱いため、葉いもち防除（育苗箱施用剤または水面施用剤）を必ず実施。また、葉いもちの発生状況に応じて1～2回の穂いもち防除を必ず実施してください。

○こしいぶき、従来コシヒカリ等

育苗箱施用剤または水面施用剤の散布は必ず実施するとともに、大豆転作跡ではわたぼうしに準じて穂いもち防除の対応を行ってください

### 2 減々栽培（A団地、個人B）

稲体細胞の強化を図り葉いもちに罹病し難くするため以下の資材を散布しましょう。

けい酸加里特号	20kg/10a	6月20～30日頃を目安に散布
---------	----------	-----------------

### 3 その他

補植苗はいもち病の伝染源となるので早急に除去してください。

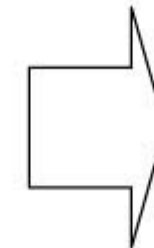
【農薬使用にあたっての注意】（当資料に掲載の農薬登録情報はH22,6,1現在）

- ・「農薬ラベル」に記載された「適用作物」「使用量・濃度」「使用時期」「総使用回数」と「使用方法」を必ず使用前に自分で確認し、適正に使用する。
- ・「農薬使用者」の責任を理解し、「農薬使用基準」の遵守に努める。
- ・散布の際には周辺を確認し、飛散のないように努める。

## 発生原因はコシだ！みんなで注意しましょう。



取置苗を放置すると



いもち病の伝染源となる